

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 栄福 )

事業所番号	0690700299		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームいろ花の里		
所在地	山形県鶴岡市下山添字中通39-1		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 15 日	開設年月日	平成 29 年 4 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりのペースに合わせた介護の提供を心がけています。自分らしく最良の生活が送れるよう、一人ひとりの思いや気持ちに寄り添い、安心した生活が送れるように支えております。四季を感じメリハリのある生活であるように、外出や季節ごとの行事をできる限り多く取り入れ、楽しく活気のある生活であるように援助しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 10月 17日	評価結果決定日	令和 5年 11月 2日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな公園を囲むようにグループホーム「いろ花の里」と同法人施設が建ち、日々散歩を楽しむ利用者の姿が見られます。職員は二つのユニットを垣根なく受け持ち、情報を共有しながら連携してケアにあたり、利用者の安全・安心な生活を支えています。また研修委員会や防災委員会など各委員会に所属してその役割を担い、事業所全体の質向上に活かしています。重度の方も寝ながら入れる機械浴で本人・家族等の希望に沿った支援に取り組み、毎日利用者の傍に座り昔の話や好きなことを傾聴して、その方を知り、その方の喜びに繋げていけるよう努めています。理念の「思いや気持ちに寄り添ったきめ細やかな支援」を実践しながら、その方らしい生活を支えている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに施設理念、目標を掲示している。目標に基づき利用者様の情報共有しながら実践できるように努めています。毎年度、目標への取り組みや達成具合を評価している。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策の為、活動は縮小しているが地域の花であるサルビアの苗を毎年頂き敷地内に植樹したり、施設の敷地の一斉草刈りに協力してもらったりと常に地域の方々との交流を大事にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭へ参加し作品を展示しどのような事を行っているか知って頂く機会をつくっている。また、地域の認知症予防コミュニケーションカフェへの参加や協力を行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し意見交換を行い、要望等を拝聴しサービスの工場に生かせるように努めている。感染予防対策により開催できないこともあったが、その際は文書にて施設の状況報告を実施している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場や、「楡引地区高齢者福祉関係事業所情報交換会」で情報交換を行いながら協体制度を築くよう取り組んでいる。利用者の制度上の問題等は市の担当者より助言を頂くなど問題解決に向けて努力しています。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心とし定期的に禁止行為の確認や、不適切な行為がないかを確認している。テラスを開放し、見守りが必要な利用者様には安全を確保しながら自由に外気浴ができるように工夫しています。夜間以外の施錠はしておりません。	身体拘束防止委員会では「日頃のケアについて」の実施調査を行い、職員は良いケア・悪いケアについて気づきを得て、より良い取り組みを考え実践できるよう取り組んでいる。事業所の周りを散歩する方には、目視できる範囲であれば職員同士声を掛け合って一人の自由な時間を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修にて虐待について学ぶ機会を作っている。日々の対応に問題がないか、職員間でも定期的に話し合い、意識や知識を高め防止に努めている。	「虐待防止の研修」や「虐待の目チェックリスト」で周知と意識確認を図り、言葉による拘束なども含め不適切ケアの防止に努めている。管理者は職員の心身の状態に目を配り、困り事や悩み事には個別に話を聞き、指導や助言をしてストレス軽減に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学んだ職員による研修報告の回覧にて学ぶようにしている。対応が必要な利用者様がないか、ケア会議やカンファレンス等で話し合いを行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学を事前に行い、疑問や不安に思っていることへの説明を行い、納得、同意を得た上で契約を行っている。利用者様の生活状況や心配に思っている事柄についても、不安要素を解決できるように話し合いを行っています。			
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口に意見箱を設置し、ご家族様からの意見や要望を組み入れるような工夫をしている。面会時や電話にてご家族様の要望や苦情があれば傾聴し、その際は職員間で周知し検討、改善に努めるようにしている。	利用者の話に耳を傾け、表情や様子から気持ちを汲み取るように心掛けている。家族等との面会は玄関ホールに椅子を置いて感染症対策をしながら時間内で実施し、毎月の担当者からの手紙でも利用者の状況を伝え、意見・要望を聞く機会を得てサービスに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催し、意見や提案を話し合うようにしている。個人面談の希望があれば、代表や管理者は面談を行う機会を設け意見等を繁栄できるように努めている。			
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や、研修会、勉強会への参加奨励を行い向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。	職員の目標には管理者や主任から進捗状況や評価の確認があり、人事考課等で処遇に反映させている。毎月のスタッフ会議の他に代表や管理者と面談して要望等が言える場を設け、職員の生活環境を考慮した勤務態勢も整えている。		
13	(5)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が上半期、下半期に個人の目標をたて、達成できるように管理指導を行いスキル向上に繋げるようにしている。外部研修の参加や施設内研修を通して職員のスキルアップに努めている。	年間計画された内部研修は各委員会(身体拘束防止・感染予防・防災・研修)が担当して実施し、受講後はアンケート提出で理解度を図ると共に、職員は複数の委員会に所属して役割を担い事業所の質向上に取り組んでいる。また資格取得に金銭面などの援助があり意欲向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や情報交換会に参加し、意見や情報交換を行っています。合同行事などを通して、相互関係を良好にし、情報交換がスムーズにできるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安軽減の為、最初に本人の不安や要望をしっかりと傾聴しコミュニケーションを密にとるよう心がけている。本人の表情や会話から不安や要望を組み取り安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安や悩み要望を傾聴し、ご家族様と利用者様が安心して個々にあった対応の提供を行うことで良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の思いや希望を確認し、早急に対応しなければならないことと、時間をかけて検討すべき事柄を見極め、本人にあった援助ができるようにしている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や掃除等、個々のできる範囲での作業を一緒に行ったり、レクリエーションや行事など一緒に過ごす時間を大事にし信頼関係を築いていけるようにしている。	ホームを生活の場として、家にいる時と同じようにご飯の支度をしたり、洗濯や掃除をしたり、皆で協力しながら一緒に行っている。共に暮らす中で利用者の経歴や生活歴を職員間で共有し、本人が喜ぶ場面づくりを心掛け支援している。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が気軽に面会に来られる雰囲気作りに努め、来設時は利用者様の近況報告を行っている。また、毎月ご家族様へお手紙にて施設での様子や、必要な物、衣類などの購入を依頼しできるだけ協力して頂きながら利用者様を支えあえる関係を築いていけるように努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力をもらいながら外出の援助、友人、知人との面会等の援助を行っています。外出レクリエーションの際は、馴染みの場所を回ったりと、支援している。	馴染みの方が訪ねて来た時は、玄関ホールで話して昔を思い出し、笑顔のひとときを味わっている。家族等との通院時やレクリエーションドライブで自宅付近を巡ったり、地域の祭り神輿が寄ってくれたりして関係が継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を考慮したうえでの対応をおこなっています。利用者様同士が協力して楽しめるような支援を行い、スタッフが利用者様同士の橋渡しとされるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、御家族様からの相談等を受け付けています。入院や他施設に転移される際は情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントシートを活用し利用者様の思いや意向の把握に努めている。毎日の生活の中で行動や発言の状況を介護記録に記し、定期的にかンファレンスで話し合い本人らしさ、意向の把握に努めるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様から生活歴や生活環境を伺いながら、本人の発言や行動などを考慮し、本人が望まれるような対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動から心身状態の把握に努め、状態に合わせ柔軟な対応を心がけています。職員間で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族様から要望を聞き取り、介護計画に反映させている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、達成状況を評価し状況の変化に応じてケア会議等で話し合い、利用者のできる事を大切にした介護計画を作成するように努めている。	「私の姿と気持ちシート」には発語をそのまま記録(定期的更新)して思いや現状を把握しながら、プランに沿って評価した課題をケア会議で検討し介護計画に活かしている。利用者ができること・できないことを見極め、半年ごとに見直し、本人主体のプランになるよう努めている。	プラン作成時に家族等が同席できない場合は、プランを確認してもらうだけでなく、見直した経緯や検討した内容なども説明して理解をもらうことが望まれる。
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子や心身の状況を個別の介護記録に記入し、情報を共有している。それを基に日々の支援や介護計画の見直しに取り組んでいる。	日々の気づきや変化、様子などは利用者一人ひとりの介護記録に在勤の職員が記録している。また業務日誌には申し送る欄があり、出勤時にそれらを確認すると共に朝の申し送りの時間を活用して情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を取り巻く状況、心身状態の変化に合わせて必要なサービスを提供する努力をしている。ご家族様様の希望があれば施設での看取りや訪問看護の導入など柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや神輿の見学など、折に触れ地域の行事を楽しまれている。職員の付き添いのもと地域の産直や、スーパーで買い物を楽しむなど援助している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、または入所前からのかかりつけ医と、ご家族様や本人が希望する医療を選択してもらっている。受診、往診時はスムーズに医療提供できるように情報提供を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子が確認できるように介護記録に記入する、また申し送り等で昼夜の状況を共有し体調の変化に対応する方法や助言を得ています。受診や看護を必要とする場合は速やかに対応できるようにしている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の情報提供を行い、入退院がスムーズにでき、利用者様が安心して生活できるようにしている。病院の関係者やご家族様との情報交換を密に行い、退院後も適切なケアができるように対応している。	入院時は医療介護情報提供書にて情報提供を行っている。医療機関の連携室や家族等から状態等の情報を聞き取りながら、今後の支援方針を話し合い、本人・家族等の意向に沿って支援できるよう取り組んでいる。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、指針に基づき施設でできる対応を伝え、ご家族様の希望を伺っています。身体状態が重度化してきた場合は、主治医、ご家族様と今後の方針について話し合い、ケアを統一し対応するようにしている。	入居時の説明に沿って、継続した医療行為が必要になるなど対応困難な場合以外は、寝台浴の設置や食事内容も状態に合わせて対応し、終の棲家として穏やかに暮らせるよう努めている。他施設へ転居を希望する方には選択肢の一つとして尊重し、意向に沿って支援している。看取りを終えた後は看取りケアプランに沿って振り返り精査し、経験値を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し確認できるようにしている。定期的にAEDの使用手順や心肺蘇生訓練を行っている。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練や避難訓練を実施し消防署からの訓練指導を受けています。風水害の避難マニュアルを作成し訓練を行っています。	防災委員会を中心に隣接の同法人施設と合同で消防署員と消防設備業者立ち合いの下訓練を実施し、終了後は職員アンケートで反省点を聞き内容を検討して職員会議などで結果報告している。年間計画に沿って毎月点検や訓練を行い災害に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや気持ち、性格を把握し一人ひとりの人格を意識しながら、本人の尊厳を傷付けないよう配慮した言葉を選び、声掛けや対応を心がけている。	利用者の経歴や会話の中で得た情報を全職員で共有し、その方が誇りとする事柄を大切に輝かしい時代の呼び名を使うなど一人ひとりの思いに寄り添っている。トイレ誘導や失敗時には他に気づかれないよう、そっと声掛けて羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい環境づくりに努め、自己決定ができるように働きかけています。上手く伝えられない方には声掛けを工夫したり、選択肢を提示し、表情や様子から組みとり対応するようにしている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースや、1日の過ごし方を理解しその人のペースにあった声掛けを心がけています。その日の体調や気分等にも配慮し、希望に添えるように努めている。	大まかな一日の流れはあるが、起床が遅い方には間合いを見て食事を勧めるなど、その時々意向に沿って対応している。米研ぎや料理の盛り付けなどの役割を担う方や毎日公園の周りを散歩する方など、自分らしく張り合いのある生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、着る服を自分で選んで頂いたり季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしています。希望にて出張理美容(カット、顔そり、毛染め)の利用も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食などの提供ができるように心がけています。おかずの盛り付けや食器洗い、食器拭きのお手伝いをして頂いている。	ごはんと汁物は職員が調理しておかずは配食サービスを利用し、味噌汁の具に畑で採れた野菜を使ったり、季節毎の郷土食などもメニューに取り入れられ、充実した内容となっている。行事では利用者の希望を聞きながら寿司などの出前も利用し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々に合わせた食事形態で提供し、チェック表にて食事摂取量を把握し食事が充分でない方には高カロリー食、水分不足の方にはゼリー等で補うような工夫を行っている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。できないところはスタッフがお手伝いし、口腔内をチェックしている。夜間帯は入歯を預かり洗浄剤で消毒を行っている。	食後の口腔ケアは自分でできることをしてもらい、できないところはその方に合ったケア用品を使い手伝っている。利用者の中には歯科医の訪問診療を受診する方もおり、夜間預かって朝に返す義歯消毒もまめに行い、口腔内の清潔を保っている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。尿意を訴えられない方は定時での声掛けや誘導、排泄の兆候を確認したらトイレ誘導し失敗を減らせるように努めている。	夜間のみポータブルトイレやおむつ利用の方もいるが、利用者のパターンに合わせて誘導し、日中は歩けない方でもトイレに座ってもらい、気持ちよく排泄できるように心掛けている。業者を講師に大人用紙おむつ勉強会も開催し、排泄ケアの再確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の状況を把握しています。起床時に水分を摂って頂き腸の動きを活発にする工夫や、乳製品、寒天ゼリーの提供、体を動かすなど自然排便を促すように援助している。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のその日の体調や要望に合わせて、時間や曜日を変更し希望に添えるように調整しています。個浴が困難な利用者様には機械浴対応を行い、時々入浴剤を入れるなど楽しみなものになるように工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時の状況に応じ休息がとれる環境を整えている。日中は活動の場を提供し、夜間は安眠できるように努めている。季節にあった寝具や室温管理を行い、気持ちよく眠れる環境を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や疾患の特徴、内服薬の確認がいつでもできるように個人ファイルにまとめてあります。また、病状の変化を観察し看護師や主治医に随時報告している。	受診後に医療機関より薬局に処方箋がファックスで送られ、一包化した薬を届けてもらっている。飲薬時は三重のチェックを経て名前を確認し誤薬防止を図り、薬の変更があった場合は看護師から説明があり、飲薬後利用者の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、植木の水やり、裁縫など利用者様が持ち合わせていた能力を發揮できるように援助しています。毎日の散歩を日課にしている方の援助や、行事などで気分転換を図り、楽しく生き生きと生活ができるように支援している。			
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力のもと、外出や外食など随時希望に添えるようにしています。草むしりや周辺への散歩、地域の行事へ出かけるなど、戸外に出かける機会は多く取り入れている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じ、ご家族と相談しながら対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば、電話連絡の対応を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、常に室温や湿度調整、喚起を行い快適に過ごせるように配慮しています。また、掲示スペースには利用者様の作品や季節感のある飾り物を掲示し安心感の中で気持ちよく過ごせる環境を提供できるように努めている。	職員の立ち位置から死角なく見渡せるダイニングの壁には、落ち着いた色彩の造花やスナップ写真が貼られ居心地良い空間となっている。家事の手伝いや運動・レクリエーションなどでその人らしい姿も見られ、換気や温湿度管理・転倒防止などに気を配り、安心安全に過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室やソファ、テーブル席と、一人になりたい時、他者と仲良く過ごしたい時など、自由に行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段使用していた物や、安心できる物を持ってきていただき、安らげるようにしています。仏壇、テレビ、写真等、様々な物が居室に置いてあります。	ベッド・寝具・洋タンス・チェストが備えてあり、他に必要があれば使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい、居室内の動線を確保し危険のないように配置している。仏壇を持ち込み毎朝水を供えて手を合わせる方もおり、安心できる自分だけの空間となっている。居室入口には名札代わりに花のプレートを掛け、個人情報に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室への目印や、共用で使用する場所には混乱なく認識できるように文字を大きく表示したり、導線に危険な箇所を作らないように環境整備に努めている。		